

TAKASAGO MINATOMACHI



MINATOMACHI ARCHIVE
EST. 1992

高砂みなとまちづくり構想推進協議会—協議体

みなとまちづくりの成果

産業ミュージアム協会

ウォーターフロントミュージアム協会

歴史ミュージアム協会

○案内板設置

高砂市の歴史を知ってもらうため、南山石を題材にした歴史の案内板を4基設置しました。

南山石を用いた石柱

○堀川地区のまちなみの保存

修復された一般公開されている工業団地の駐車場及びトイレの整備、道路整備（カラー舗装）を行いました。



駐車場及びトイレの整備

カラー舗装された道路

堀川地区に残存する古民家を活用し、高砂の歴史を伝えるスペースを設け、高砂地区まちづくりの推進を支援しています。

高砂市歴史ガイドとイベント実施

「高砂市歴史ガイド」などがあり、高砂の歴史を伝えることができます。また、高砂市歴史ガイドとイベントを実施しています。

高砂のまちづくり

令和2年2月に高砂駅前広場整備基本計画が決定されました。令和3年11月より道路整備を進めています。

高砂駅前広場のイメージ図

「高砂市まちづくり構想」をもとに町民でできた成果を紹介します！



○南北交通の整備

中浜平津線は地元の交通が滞りやすくなるなど地域社会、経済活動に支障をきたしていましたが、平成29年12月に中浜平津線が完成し、自動車も整備された安心・安全な通行が実現しています。



○あらい浜公園の利活用

あらい浜公園に一人で多く足を運んでもらおうと、取り組みの一つとして「あらい浜」の開発を進めています。市民のみなさんにより活用されることを目指しています。

あらい浜に咲く花

高砂市浜公園・向島公園の利活用、公園整備や公園施設の改良及び海沿いの保全

高砂市浜公園は白砂青松や海に浮かぶ人工島が特徴。水遊びや散歩など一年を通して楽しめる公園です。公園内には多目的トイレの整備を行いました。また、人工島には夕焼けを鑑賞できる休憩所の整備を行いました。

多目的トイレの整備

夕焼け鑑賞できる休憩所

高砂市周辺の歴史再発見と連携

たかき（たかき）は平成18年に高砂市が「歴史まちづくり」に指定されたことを受け、高砂市が「高砂市まちづくり」という名称で指定されました。翌年の平成19年から市長が一人となった高砂市市長会に引き継がれ、高砂市が「たかき」を指定し、市長が一人となった高砂市市長会に引き継がれました。

高砂市西港リニューアル

高砂市西港の再開発に際して、高砂市西港の再開発として専用道路、公共施設の整備、観光の一体感など、みなさんの生活の向上を目指して、平成23年3月に完成しました。

高砂市西港整備後の写真



高砂市西港リニューアル

高砂市西港の再開発に際して、高砂市西港の再開発として専用道路、公共施設の整備、観光の一体感など、みなさんの生活の向上を目指して、平成23年3月に完成しました。

高砂市西港整備後の写真

高砂市西港リニューアル

高砂市西港の再開発に際して、高砂市西港の再開発として専用道路、公共施設の整備、観光の一体感など、みなさんの生活の向上を目指して、平成23年3月に完成しました。

高砂市西港整備後の写真

高砂市西港リニューアル

高砂市西港の再開発に際して、高砂市西港の再開発として専用道路、公共施設の整備、観光の一体感など、みなさんの生活の向上を目指して、平成23年3月に完成しました。

高砂市西港整備後の写真

高砂市西港リニューアル

高砂市西港の再開発に際して、高砂市西港の再開発として専用道路、公共施設の整備、観光の一体感など、みなさんの生活の向上を目指して、平成23年3月に完成しました。

高砂市西港整備後の写真

高砂市西港リニューアル

高砂市西港の再開発に際して、高砂市西港の再開発として専用道路、公共施設の整備、観光の一体感など、みなさんの生活の向上を目指して、平成23年3月に完成しました。

高砂市西港整備後の写真

高砂市西港リニューアル

高砂市西港の再開発に際して、高砂市西港の再開発として専用道路、公共施設の整備、観光の一体感など、みなさんの生活の向上を目指して、平成23年3月に完成しました。

高砂市西港整備後の写真

高砂市西港リニューアル

高砂市西港の再開発に際して、高砂市西港の再開発として専用道路、公共施設の整備、観光の一体感など、みなさんの生活の向上を目指して、平成23年3月に完成しました。

高砂市西港整備後の写真

高砂市西港リニューアル

高砂市西港の再開発に際して、高砂市西港の再開発として専用道路、公共施設の整備、観光の一体感など、みなさんの生活の向上を目指して、平成23年3月に完成しました。

高砂市西港整備後の写真

高砂市西港リニューアル

きっと好きになる。
そんな高砂が、あなたを待っています。

contents

- | | | | |
|----|---------------|----|-----------------|
| 02 | はじめに | 10 | “帰ってきたい町”にするために |
| 03 | “まち”をつくる楽しさ | 11 | ココから見える“まち”の景色 |
| 05 | 高砂の“まち”が大好き | 12 | 学生ボランティアに聞きました |
| 07 | 変わっても、変わらない魅力 | 13 | みなとまちづくりの歩み |

はじめに

高砂市は、加古川の河口に広がる砂浜のまちとして歩んできました。川と海が出会う場所としてにぎわい、港とともに播磨の成長を支えてきた、あたたかな歴史を持つまちです。時代の移り変わりの中で海辺の姿は変わりましたが、人々の思いはいつも海とともにありました。

そんな中、「海辺をもっと心地よい場所にしたい」という声から生まれたのが「高砂みなとまちづくり構想」です。市民のみなさんとともに20年間歩み続け、多くの出会いや挑戦、そしてたくさんの実りを積み重ねてきました。この長い年月の中で育まれた取り組みや思いは、これからの高砂を支える大切な土台となっていくます。

この冊子では、長いあいだ高砂のみなとまちづくりに

関わってこられた方々のお話をまとめました。

市民が誇りを持ち、子どもたちへ安心して受け渡せる高砂であり続けるように。

多くの人の思いが重なり、これからも高砂の未来があたたかく育っていくことを願っています。





元国立明石工業高等専門学校建築学科教授 八木雅夫

高砂みなとまちづくり構想推進協議会委員

元高砂市職員 後藤 聡

都市計画部門で、みなとまちづくり推進事業の
中心的存在として活躍。



“まち”をつくる楽しさ

●高砂まちづくりの原点を振り返る

八木 高砂のまちづくりの原点は 1990 年代初頭にさかのぼります。1992 年に兵庫県が実施した堀川周辺地区の色彩調査は、単なる景観調査ではありませんでした。この町並みには「すでに価値がある」ということを、外部の視点から示した点で、大きな意味を持っていたと思います。



後藤 市としても、その流れを受けて 1996 年に整備計画を策定し、タウンウォッチングや住民アンケートを行いました。ただ、当時は「まちづくり＝行政の仕事」という意識が強く、住民主体とは言い難い段階だったのが正直なところです。

●住民の意識が変わり始めた転機

八木 転機の一つが、2012年に立ち上がった「堀川周辺の町並みを考える会」です。住民自らが学び、町を歩き、再発見地図を作る。町名由来の看板設置なども含め、「この町をどう語るか」を自分たちの言葉で考え始めた点が非常に大きかったと思います。

●臨海部で進んでいたもう一つの動き

後藤 私が高砂市で臨海部の計画に関わり始めたのは 2003 年です。当初は「みなとまちづくり」という名称もなく、港湾整備や工場跡地の活用、企業へのヒアリングなどを進めていました。その時は点にしか見えなかった取り組みが、後に振り返ると一本の線でつながっていた、感覚があります。



八木 高砂の特徴は、国の港湾制度をそのままなぞらなかったことです。港だけを見るのではなく内陸部の市街地や歴史地区まで含めて、「港とまちをどう結びつけるか」を考えたこの視点は、当時としてはかなり先進的でした。

●「高砂みなとまちづくり構想」が示した方向性

八木 2005 年に策定された構想の柱は、「憩い・うるおい」「にぎわい・活力」「歴史」の三つです。にぎわいと言っても、単なる商業活性化ではありません。高砂に根付く産業そのものを、町の価値として位置づけました。

後藤 構想ができたことで、それまでバラバラに動いていた検討会や事業が同じ方向を向くようになりました。行動計画を作り、「何を、いつ、誰がやるのか」を明確にしたことで、ようやく実行段階に入れたという実感があります。

●まちに残った具体的な成果

八木 印象深いのは、あらい浜風公園の整備です。工業地帯の中に市民が集える場所が生まれた。ある方が「この公園ができて、高砂市の姿勢が変わったと感じた」と話してくれました。空間一つで、行政と市民の関係性まで変わるのだと実感しました。

後藤 私は万灯祭ですね。初期は行政主導の色合いが強かったのですが、回を重ねるごとに地域の人たちが主体となってきました。今では高砂を代表する行事として定着しています。



●万灯祭が象徴するもの



八木 ある年、会場で地元のお父さんが「高砂も捨てたもんやないな」とぼつりと言われたことがあります。その一言に、この祭りの価値が凝縮されていると感じました。多額の予算ではなく「人の思いが町の誇りをつくる」その象徴が万灯祭だと思います。

後藤 一年目は市の職員が主体でしたが、二年目からは地元の方々が中心になってくださり本当に嬉しかったです。今はお客さんとして、毎年楽しみにしています。地域を活性化をせようと色々な施策をします。そのチャンスを逃さないように…「高砂ならこれができる」という決め手があれば

“まちづくり”

がより一層広がっていくのではと感じています。



●現在高砂が立つ場所

後藤 今は明らかに転換期だと思います。指定や文化財保存活用地域計画など、制度面はかなり整ってきました。

八木 文化財も、「守る」だけの時代から、「どう活かすか」を考える時代に入っています。みなとまちづくりが持つ実行力と、文化・歴史のビジョンをどう結びつけるかが重要です。

●行政の役割

後藤 行政が前に出すぎないことも大切になると思います。住民や民間が主役となり、行政は伴走役として支える。その距離感が、持続的なまちづくりには欠かせません。



●歴史的な資産に注目が集まっています。

後藤 工楽松右衛門が作った防波堤が「土木遺産」に認定されました。「なんとかしよう」と地域で声を上げ動いた結果です。こうやって地域の歴史の積み重ねが評価され前に進んでいます。評価されるための「計画」も中身も練り上げることも必要です。そうすることで町が潤い、誇りを持つことができ、幸せを感じられるようになります。地元の方々が、地域のために取り組んでいる、町の未来を考えて歩んでいる姿は本当に素晴らしいです。それを外に向けて発言していくべきだと思います。



●高砂のこれからに寄せる期待

八木 祭りやイベントの日だけでなく、平日にも人が訪れ、「ここに住みたい」と思える町になることです。日常の積み重ねが、人口や暮らしにつながっていくはずです。

後藤 20 年以上続いてきた「みなとまちづくり」は、多くの人の思いの結晶です。その痕跡が町のあちこちに残っていること自体が財産です。次の世代が、それをどう受け継ぎ、どう育てていくのかを楽しみにしています。

高砂の“まち”が大好き

20年以上前から始めた「高砂の案内人」
まだまだ尽きない町のネタ。
市内のあちこちに史跡の石柱を建てるのが目標です！

高砂歴史ガイドクラブ代表
歴史ミュージアム部会員

唐津哲男



●活動へ参加したきっかけ

最初は市役所の職員さんに“会議に出てくれへんか”と頼まれてな。内容はよう分からんまま行ったんやけど、続けとるうちに、高砂には公共施設がほとんど無いことに気について、意見も言えるかと思って続けてきたんです。



●印象に残っているエピソード

史跡に証拠になるもんが無くて、ガイドしても伝わりにくかったんです。ほんなら石柱を立てようと提案して、20本以上建てました。場所を決めるために歴史を調べ直したり、戸籍まで取ってもろたりしてね。河合儀三郎の生誕地も、県の資料が違って、調べ直して場所を変えたんですよ。



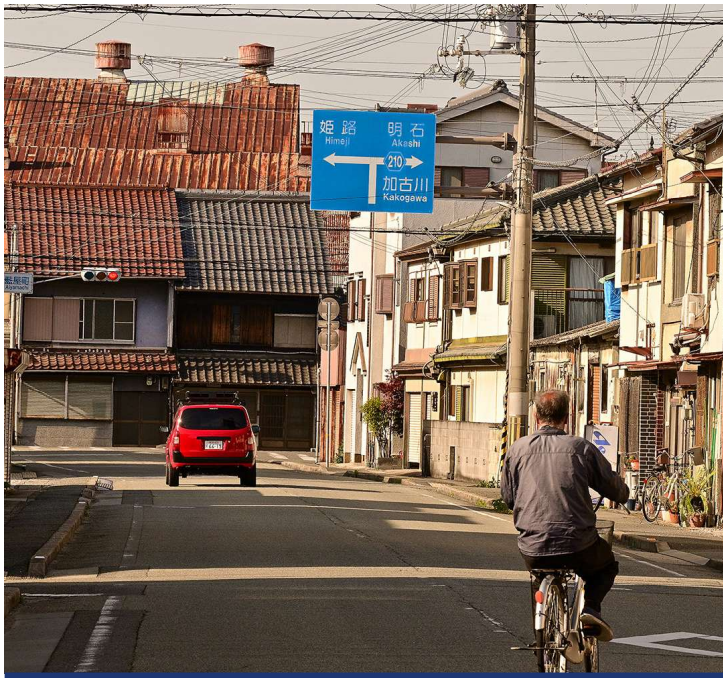
●唐津さんにとって「みなとまちづくり」とは

町が少しでも元気になったらええなと思って、かわら版を作ったり、文化財に石柱を立てたりしてきました。でも人口が減って町の雰囲気は下り気味やし、公共施設も増えへん。他所と比べると、正直ちょっと寂しい気持ちもあります。



●未来への想い

子供に何か残す言うても、今の大人がしっかりせなあきません。空き家や路地の荒れも増えとるし、古民家の活用もまだまだ。史跡の石柱も、本当は荒井や曾根にも建てたかったんです。ガイドも高齢化してきて、次の担い手をどう育てるかが大きな課題ですね。



変わっても、変わらない魅力



NPO 法人花と緑のまちづくり高砂

浅原正三 市内各地で植栽によるまちづくり活動

網干登記測量事務所

産業ミュージアム部会員

網干年明 瓦版編集員としても活動

郷土料理あすか

ウォーターフロントミュージアム部会員

吉田耕三 高砂のまちを撮影し記録を残す活動

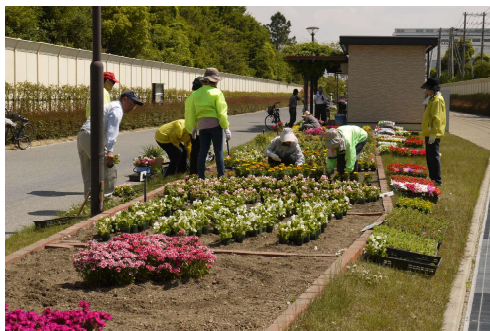
●花と緑がつないだ人の輪と活動の広がり

浅原 花と緑の活動は、まちづくりの中でも特に“人をつなぐ力”が強い取り組みでした。

県の講座で学んだことがきっかけで、企業の緑化担当を任せられ、工場立地法の届け出や県との協定づくりなど、環境づくりに深く関わるようになりました。その流れでNPO法人を立ち上げ、地域の公園管理や花壇づくりにも取り組むようになりました。

あらい浜風公園の花壇づくりでは、苗を育てるところから始め、文化会館の裏でプランターを並べて水やりをし、季節ごとに植え替えをしていました。重労働でしたが、地域の人々が「きれいになったね」と声をかけてくれると、それだけで疲れが吹き飛びました。

花は誰でも関わりやすく、地域の人々がまちづくりに参加する入口にもなりました。自治会との協力も進み、活動の輪が自然と広がっていきました。



●地域を支えてきた人たちと、これからのまち

浅原 地域の現実には、この20年で大きく変わりました。担い手不足、人口減少、交通の問題、祭りの変化…。どれも避けて通れない課題です。自治会が高齢化が進み、若い人は仕事で忙しく、ボランティアに割ける時間が減っています。バスの運転手不足や交通の不便さも、生活に直結する問題です。



自分たちのまちは自分たちでつくる

網干 行政との関係も、うまくいくときもあれば、思いが伝わらないと覚えることもありました。「本当に地域を良くしようと思っているのか」と疑問を抱く場面もありました。

それでも活動を続けてこられたのは、やっぱり“人とのつながり”



があったからです。

誘われて参加したのがきっかけで、自治会副会長から会長へ、そして連合自治会や産業部会、ウォーターフロント、歴史部会へと役割が広がっていきました。



行政と市民と一緒に動く「協働」の形が求められる今、地域の力をどう次につないでいかが大きなテーマになっています。

●現場で積み重ねてきた記録、残る思い出

吉田 花壇づくり、西港の再整備、公園の工事、ホテルの池づくり、祭りの準備…。

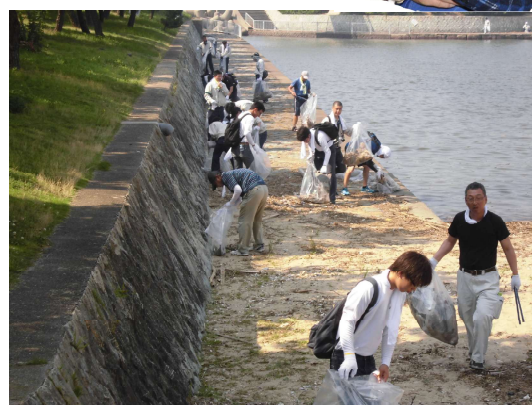
現場で積み重ねてきた活動には、どれも“その時その場にいた人にしか分からない記憶”があります。

工事現場や祭りの様子を定点撮影して、DVDやブルーレイにまとめてきたのも、「後から見返したときに、何がどう変わってきたか分かるように」という思いからでした。

30年以上の映像は、地域の貴重な財産です。

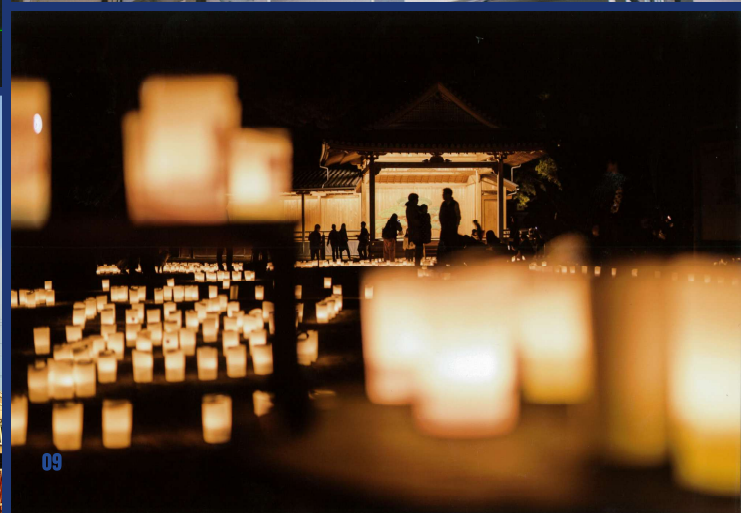
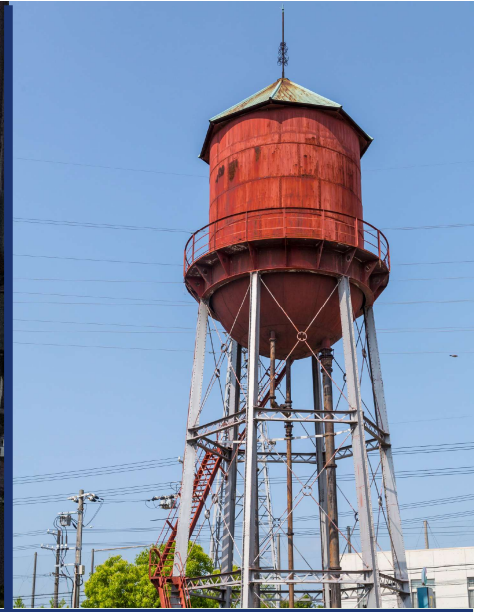


祭りは担ぎ手不足や協賛の減少など課題も多いですが、地域の人と一緒に汗をかい準備してきた経験は、何よりの思い出です。台風の後と一緒に清掃したり、花壇を整えたり、そうした積み重ねが地域のつながりを育ててきました。記録を残すことは、次の世代に「このまちがどう歩んできたか」を伝える大切な役割を持っています。



自然と人の

やわらかなつながりが、
地域の力をそっと支えていく。



“帰ってきたい町”にするために

「知っとこ」「食べとこ」「行っとこ」
地元を知ってほしい
この想いで続けてきました。

まちの再生デザイン室
歴史ミュージアム部会員
瓦版編集委員

田中直実



●かわら版づくりの裏側

かわら版は“知っとこ・食べとこ・行っとこ”の三本柱で、地元をもっと知ってもらいたいと思い作ってきたんです。唐津さんや網干さんと、毎回どんな記事にするか悩みましたが、出来上がったものはどれも紹介したいところばかりで。八木先生も“全部まとめたら立派な案内書になる”と言われてましたね。ほんまにそう思います。もっと多くの人に届いたらええのになぁと。

●子どもたちに地元を知ってほしい

高砂の良さに気づかんまま成長して、市外に出て、“高砂って良かったんや”って思う人もきっと多いんです。例えば、小学校で地元の歴史などの魅力を学ぶ機会があったら、もっと高砂に興味を持ってもらえると思うんですよ。私も小学生のときに歴史探訪に参加して、とても印象に残っています。

これまでに蓄積された資料を学校で使ってもらったり、ガイドさんの話を聞く時間を作ってもらったり、そういう取り組みが必要やと思うんです。



時間を作ってもらったり、そういう取り組みが必要やと思うんです。



●まちづくりは“人づくり”

まちづくりは長い時間がかかるんですが、今できることを始めることが重要です。若い時から地元のまちづくり活動を知っていたら将来の不安も減るし老後の居場所にもなる。学校の運営委員会などと連携できたら、まちづくりを知る機会はい意外と提供できるのかもしれない。

●帰ってきたい町にするために

地元を誇れる気持ちがあったら、大学や就職で外に出ても“いつかまた帰ろう”って思えるんです。かわら版やガイドさんの蓄積は絶対に無駄になっていないし、子ども達が身近に知ることができたら、家での会話に上がるかもしれません。



ココから見える“まち”の景色

朝ごぱん市…高砂市高砂町の銀座商店街で毎月第3土曜日の朝に開催される朝市。「まちを元気にしたい」という想いを持つ人々と商店街が連携し、平成26年から開催されている。

八木健吾建築設計事務所

朝ごぱん市

八木健吾

スタートでいい

過程でいい

帰る場所でいい



●まちとの出会い

26歳の頃、地元へ帰省したときに「空き家を活用した店がある」と知り、高砂駅近くの店を訪れました。そこで作家さんや荒井の匠工芸さんと出会い、まちの活動に興味を持つようになったんです。

●朝ごぱん市へ参加

高砂町を拠点に活動していたデザイナーの女性が、商店街の方から何か一緒にできないかと声をかけてもらったことが始まりです。僕も仲が良かったので、手伝うようになり、2020年からは積極的に中心として関わり始めました。

●印象的なできごと

朝ごぱん市を続けていく中で、商店街の皆さんがより前向きになったように思います。コロナ禍で出店者が4組しかいない時期もありましたが、それでも続けてきたことで人が戻ってきたのは大きな出来事でした。



●活動が生む価値

人が元気になることが、まちの元気につながると実感しています。日本では自分の意見を言いにくい場面が多いですが、朝ごぱん市のような場では自然と意見が言えるようになる。肩書きではなく“その人自身”が見える場所なんです。

●自身の変化と成長

若い頃は意見を言うのが苦手でしたが、このまちの人たちが受け止めてくれたことで、話すことが怖くなりました。ここでの活動は、僕のコミュニケーションを育ててくれた場所でもあります。

●次世代への願い

若い人たちが積極的に関わってくれることです。若い人がいるだけで場が明るくなり、希望が生まれる。ここで得た経験を、将来は自分の地元還元してくれたら嬉しいですね。



学生ボランティアに聞きました！

朝ごはん市に参加して、感じたこと・学んだこと



「高砂」に関わるようになったきっかけ

地元とは関係ない大学で文学を学んでいましたが、高校時代から高砂にはよく遊びに来ていました。大学3年のときに高砂市役所でインターンを経験し、地域や行政の仕事に興味を持つようになりました。レトロな雰囲気の高砂町が好きで、自然と足が向くようになったんです。



「朝ごはん市」との出会い



出店していたコーヒー屋さんをきっかけに通うようになり、雰囲気が好きで「もっとこうなったら面白いのに」と考えるようになりました。若い世代が入りやすい場所が増えたらいいなと思い、写真撮影や動画づくりなど、自分にできる形で関わり始めました。



「高砂町」の魅力

神社や古い民家など、歴史ある建物に惹かれます。普段は入りづらい場所も多いので、若い人が気軽に訪れられる機会がもっとあればいいなと思います。ゆっくり本を読める空間や、落ち着ける場所が増えると嬉しいです。

自分自身への変化

続けるうちに本当に地域に関わりたい気持ちに気づきました。これまで地域の大人と話す機会が少なかったのですが、ここでは相談できる先輩が増え、つながりができたことが大きな変化です。人前で話すのが苦手でしたが、活動を通じて少しずつ自信ができました。

これからの関わり方

高砂から離れるつもりはなく、就職後も何らかの形で関わり続けたいです。中高生がもっと主体的に参加できる場づくりにも興味があります。ここで得た経験を活かし、地域と人をつなぐ役割ができればと思っています。



運営ボランティア

まちを好きになる朝。若者がつくる新しい風！

朝ごはん市には、若い世代の参加が増え、場の雰囲気が明るくなりました。学生が自由に企画へ挑戦できる場所として認識され、商業科の高校生や企業など多様な主体が活動のフィールドとして活用しています。

若いメンバーは自主的に動き、地域とつながり、自分ごととしてまちを考えるきっかけになっている。次の世代がまちをより良くしていく力を育む場として、この流れが続いてくれたら嬉しいです。

みなとまちづくりの歩み



1992年 兵庫県が「高砂堀川地区色彩調査」を実施
伝統的な街並みが再認識されるきっかけに

1996年 高砂市が「高砂堀川周辺地区整備計画」を策定
タウンウォッチングやアンケート調査で地域の状況を把握

2000年 住民組織「堀川周辺の町並みを考える会」が発足
町の魅力を再発見する活動が始まる

2001年 市民となぎさの距離を縮めるパブリックアクセス事業
あらい浜風公園が**2001年**から**2006年**にかけて整備された

2002年 「高砂堀川再発見地図」を作成
町名由来を紹介する「町名由来版」を設置

2004年 「高砂みなとまちづくり構想策定懇話会」発足

2005年 「高砂みなとまちづくり構想」策定。その後、構想審議会発足
3つの“ミュージアムづくり”を検討する



2006年 「景観形成地区」に指定されたことにより、高砂町全体を対象とした景観計画策定
その後、景観形成重要建造物に高砂商工会議所会館や三連蔵などが指定される。
現在では多くの人が集まる地域イベント「たかさご万灯祭」の前身である「高砂みなと堀川まつり」が開催。
また、兵庫県が専門家により構成された「高砂西港盛立地のPCB汚染土に係る技術検討専門委員会」を
設置・検証。**2012年**から**2014年**にかけて盛立地の対策工事が実施された。



2007年 「高砂みなとまちづくり行動計画」を策定し、具体的な取組が進行

2008年 兵庫県が事務局となり専門家、市民、企業、行政で構成された「高砂
西港再整備推進協議会」を設置・検討。
2012年から**2016年**にかけて高砂西港再整備事業が実施された。

2009年 市が中心となって、竜山石を用いた「史跡等石柱」の設置が始まる。



2010年 「高砂市歴史文化基本構想」策定

2014年 旧高砂消防分署の改修工事竣工

2015年 「堀川周辺地区建物等基本計画」策定

2016年 高砂海浜公園（向島公園）を再生
するため、**2016年**から**2021年**にかけ
てリニューアル工事が実施

2017年 工楽松右衛門旧宅の改修工事竣工

2018年 日本遺産「北前船」に高砂市が追加認定



あなたの知らない高砂がここにある。

荒井地区民生委員 角野義輝

コンパクトな町に有名な会社、古い街並みが残る高砂！

網干登記測量事務所 網干年明

安全で旧知の人々が住む風土が好き。

郷土料理店「あすか」 吉田耕三

「高砂育ち」、「高砂好き」が増えたらいいな！ まちの再生デザイン室 田中直実

人と人が自然につながるまち。

八木健吾建築設計事務所 八木健吾

人との距離感が程よく近くコンパクトなまちが好きです。祭り文化があるから心が一つになると結束力が強いのも好き。

高砂商工会議所 大江達也

歴史や文化、まちの景色を守ってくれている人たちがいるから、『高砂が好き』と言える。

(一社) 高砂市観光交流ビューロー 佐野絵里奈

Why are you going to TAKASAGO?
—Because TAKASAGO is there.

みなとまちづくり構想やインタビューの詳細は、こちらに掲載しています。



この冊子は、公益信託大成建設自然・歴史環境基金 2025 年度助成金により作成しました。



TAKASAGO MINATO PROJECT 2026